

三田市地域子育て支援センター みな・とっちひろば

## 大学だからできる専門的なサポート

## 安心の子育て空間は親も子も成長させる



各地の「地域子育て支援センター」は、育児や成長発達、しつけなどの悩みや疑問を専門家に相談できる場だ。対象は就学前の子どもがいる家庭。「ひろば」と呼ばれるプレイルームを開室し親子を受け入れている。また、サークル活動と呼ばれる、保護者が主体となる活動のサポートも行なう。

三田市の地域子育て支援センターが他と違うのは、湊川短期大学内に入っていること。湊川短期大学には幼児教育保育学科があり、リズムスタジオや図書館、その他大学の保育施設を利用できるほか、大学の教員が講師となる講座を受けることができるなど特典がある。

学校法人湊川相野学園理事で三田市子育て支援センター長の大前衛さんと、子育て支援センターの沼口智子さんに、お話を聞いた。

## 地域子育て支援センターの移設は双方にメリット



2002年、市内の湊川短期大学附属園に開設された地域子育て支援センターが、湊川短期大学内に移設されたのは、11年後の2013年だ。センターを利用する親子にとってみると、大学の専門的なサポートを受けられることなどのメリットがあり、また大学側としても、幼児教育保育学科の学生が、実際にお子さんたちと接する機会が増え、実地訓練的な意味でメリットが大きい。大前さんをはじめ関係者は、この移転は大成功だと喜んでいる。



ひろばの開室日も、以前は週2～3日だったが、移転したことで週5～6日の開室となり、利用してもらう機会が大幅に増えた。

実際に多い相談内容は、発育に関すること。沼口さんによると、子育てのマニュアルを気にして悩む人が多い印象だそう。相談には、職員が対応する場合もあれば、保護者同士で

話を聞きあって解決していることもある。もっと専門的なアドバイスが必要と感じれば、適切に専門家に繋ぐこともできる。



#### みな・とっちひろばの活動内容

「みな・とっちひろば」は三田市の地域子育て支援センターの愛称。学生が考えたキャラクター「M710 星雲の惑星からやってきたみなちゃんととっちくん」からついた。



普段は、みな・とっちひろばに親子が集い、遊んだり話したりして交流する。庭もあるので幼稚園や保育園の園庭のように遊べる。お住まいの地域は限定しておらず、三田市外の方

にも利用されている。普段は主として就園前の子どもだが、夏休み、冬休みは園児の利用も増えるので、子どもたちは少し上の年齢の子どもたちとの交流も楽しんでいる。



湊川短期大学の教員による子育てに役立つ講座「あいあい講座」も人気だ。昨年度は、「発達特性と脳の働きの関係性がわかってきた!」「夏の暑さから子どもを守ろう」「絵本に描かれた子育てのカタチ」など全7回行なった。

また、サークル活動にも力を入れている。定員を決めて募集し8回の活動で1クールとしている。活動内容は「茶道体験」や「アルバム作り」「紙芝居」などいろいろで、始めは職員が企画するが、最終的には保護者が自分たちで企画実行する。その過程で、保護者同士のつながりが生まれ、自分の中の意外な力や強みに気づくことも多いという。サークル活動終了後も交流を続ける人が多く、卒業したサークルの保護者によるクリスマス会などが、毎年開かれているのが楽しい。

短大が主催し支援センターも参加する「保育まるとフェスタ」は毎年盛況で、1日の来場者数が700人を超えるイベント。ただ最近はコロナ感染対策により中止が続いているそうなのが残念だ。

### 子育てしやすいまちとして定評のある三田市

「引っ越してきたばかりなんです」という声は、「みな・とっちひろば」で、実際によく聞きます。知り合いもない時に、まず行ってみる施設として認識されているなど感じます。」

沼口さんは「三田市は、ほどよく都会でほどよく田舎。子どもが多くて子育てしやすいまち」と評価する。

小さいお子さんをお持ちの皆さん、三田市に来て、大学での子育てを楽しんでみませんか。



キャプション

<220202\_014\_1>

三田市子育て支援センター長で理事の大前衛さん

<220202\_144>

みな・とっちひろばで遊ぶ親子の姿

<220202\_074\_1>

子育て支援センターの沼口智子さん

<220202\_134>

学生が考案した「みなちゃん」と「とっちくん」のキャラクター

<220202\_160>

保育園や幼稚園のような園庭もある

<220202\_188>

湊川短期大学外観

<220202\_088>

熱い思いを語る大前センター長と沼口さん

<220202\_140>

のびのびと遊ぶ子どもの姿